

(電子メール施行)  
農技 第 1 3 4 0 号  
平成 30 年 10 月 4 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察技術情報 第 1 号を發表しました。

イネ縞葉枯病の発生が依然として多い傾向にあります。例年イネ縞葉枯病の発生が多い地域では、防除等のご指導願います。

---

平成 30 年度 病虫害発生予察技術情報 第 1 号  
イネ縞葉枯病の防除対策について

- 1 対象作物                   イネ
  - 2 病害名 (媒介虫)           イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)
  - 3 対象地域                   県南部 (特に播磨地域)
  - 4 保毒虫率                   一部地域が高い
- 5 イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率について
- (1) 平成 30 年 9 月に県下 13 地点の水田で採集したヒメトビウンカ幼虫について、イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫検定を実施した (表)。保毒虫率 10%以上を示す地点もあり、依然として一部地域では保毒虫率の高い状態が続いている。
  - (2) また、今年の 5 月に小麦ほ場で採集したヒメトビウンカ幼虫の保毒虫率から 5 倍程度上昇している地点もあり、これらの地域では翌年のイネ縞葉枯病の多発生が懸念される。
  - (3) 翌年のヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の多発生を回避するために、冬期の防除対策を徹底し、越冬中のヒメトビウンカ幼虫の密度を減少させる必要がある。
- 6 防除上の留意点
- (1) 越冬虫の生息場所である刈り株やひこばえ、イネ科雑草が繁茂しているほ場 (写真 1) は、速やかに耕起する必要がある。また、畦畔におけるイネ科雑草の除草も並行して行うことが望ましい。
  - (2) 春先の気温の上昇とともに、ヒメトビウンカ幼虫の活動が盛んになるため、3 月末頃までに冬期の耕起を実施することが効果的である (図)。

(3) 本田期間中にイネ縞葉枯病の発病がみられなかった地域においても、秋の再生稲（ひこばえ）でイネ縞葉枯病の発生（写真2）が確認されていた場合は、冬期の耕起を実施することが望ましい。

表 ヒメトビウンカ幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率（水稲）

調査地点	保毒虫率(%)
多可町加美区	1.1 (0.0)
西脇市黒田庄町	0.0 (1.1)
加東市滝野町	0.0 (0.0)
加東市社町	0.0 (4.3)
加西市別府町	0.0 (1.1)
加古川市志方町	3.2 (2.1)
上郡町大枝	1.1 (3.2)
上郡町奥	4.3 (-)
佐用町家内	4.3 (4.3)
たつの市下笹	2.1 (0.0)
宍粟市山崎町	0.0 (2.1)
神河町吉富	11.7 (2.1)
姫路市香寺町	7.7 (10.6)

2018年9月に採集したヒメトビウンカ幼虫について簡易エライザ法を用いて保毒虫率を検定した。各地点94頭を保毒虫検定に供試した（姫路市香寺町のみ142頭供試）。

( )内は2018年5月に小麦ほ場から採集したヒメトビウンカ幼虫の保毒虫率。( - )は未検定を示す。



写真1 ほ場内に残存する刈り株やイネ科雑草

ヒメトビウンカの越冬場所になるため、冬から春にかけて雑草が繁茂する環境を作らない。



写真2 再生稲（ひこばえ）の発病株

葉色が黄化し、巻いて垂れ下がる。

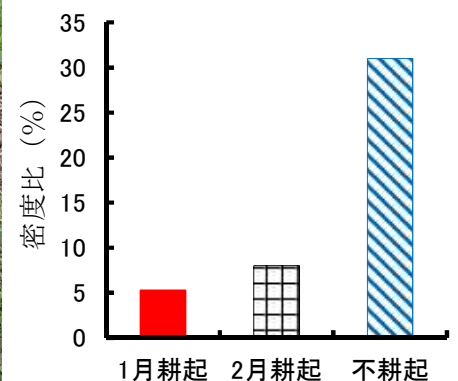


図 冬期耕起によるヒメトビウンカの密度低減効果

密度比（3月と4月の平均密度/前年12月の密度）  
冬期の耕起は効果的。

この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222